

## 90年代における不良債権処理の回顧と今後の展望

早稲田大学 西村吉正

### 1 バブルの崩壊

バブルの崩壊はいつ、何をきっかけに始まり、当時はどのように受け止められていたか。それによる不良債権の発生、銀行経営への影響はどのように考えられ、どのように解決されようとしていたのか。このような問題と証券・金融不祥事（1991年）は関連があると考えられていたのか。

### 2 破綻処理の開始

94年以降の金融機関破綻処理はどのような認識の下に、どのような手法で行われようとしたのか。公表不良債権額が膨れ上がっていったのはなぜか。住専問題には他にどのような選択肢がありえたか。当時もっと思い切った不良債権の処理をしていれば、こんなにコストはかからなかったか。

### 3 金融危機とその対応

96年以降、日本版ビッグバンと不良債権処理の優先順位をどのように考えるべきだったか。97年秋の金融危機は避けられたか。拓銀・山一・長銀・日債銀などのハードランディングは適切だったか。

### 4 90年代の位置付けと今後の課題

90年代におけるわが国経済の苦境はバブル崩壊による不良債権問題が原因なのか。90年代後半以降は、むしろ経済実態の悪化が金融機関経営にしわ寄せされているのではないか。不良債権の迅速かつ抜本的処理をすれば問題は解決するのか。何でも金融のせいになれすぎていないか。

上記のような論点について、行政の現場にいた感覚から問題提起し、学界からの率直な批判・対案を仰ぐ機会としたい。